

1 審議会名	塩田地域協議会
2 日時	平成28年11月17日(木) 午後1時30分から午後2時55分まで
3 会場	塩田公民館 大ホール
4 出席者	山極会長、山部副会長、阿部委員、伊藤委員、尾崎委員、工藤委員、小林委員、坂田委員、高野委員、竹内(榮)委員、竹内(弘)委員、龍野委員、西川委員、早坂委員、林委員、本間委員
5 市側出席者	北沢センター長、土屋地域振興政策幹、堀内センター長補佐、佐藤主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 無
8 会議概要作成年月日	平成28年11月25日

## 協 議 事 項 等

## 1 開会(副会長)

## 2 あいさつ(会長)

## 3 協議事項

## (1)専門委員会の取組状況について

専門委員会の代表者から取組状況について説明を受け、意見交換を行った。

## 「地域振興委員会」

(委員会代表者) 過日開催した委員会では塩田地域における道路整備について意見交換を行った。意見書としてまとめる場合は継続的に話し合いをしていく必要がある。

今回は、前々回に別所温泉の観光関係者と懇談した際、塩田地域の農産物を宿泊客などに提供する大きな直売所がなく、品揃えも不足しているという話があったことから、別所温泉の観光客などに塩田地域の農産物が提供できるような仕組みについて農協関係者などを交えて検討する予定である。

(会長) 別所温泉についての説明があったが、大河ドラマ「真田丸」放送によって別所温泉はどのような影響があるか。

(委員) 別所温泉の旅館の宿泊客数は前年度の120~130%と賑わっている。しかし、観光バスで来られた方の昼食を提供できる場所が無かったり、多くの農産物を買って帰りたいという場合は周辺の大きな道の駅を紹介せざるを得ない状況で、塩田地域にお金が落ちていない。

(委員) 別所温泉の農産物直売所は運営している組合員数が40人ほどで品揃えも少ない。葉もの野菜など温度管理できる設備などの整備も必要になってくる。

(会長) 丸子地域の農産物直売所「あさつゆ」は大変賑わっている。従業員の教育も徹底しており、珍しい野菜の調理方法などの問合せにもしっかり答えられるよう勉強していたり、畑で実際に収穫を体験して、その体験をお客に伝えているようで、それらが顧客の増加につながっていると聞きしている。農産物直売所もこれからは運営を工夫していくことが必要である。

#### 「地域福祉・教育委員会」

(委員会代表者) 長野大学の公立大学法人化について考えるに当たり、大学や市に状況を聞いたうえで研究していく予定であり、まず10月7日に長野大学において大学側と懇談を行った。

長野大学は大学の地域貢献度が全国の私立大学の中で6年連続ナンバーワンになっており、地域に対する関わりを大切にしているという話があった。

長野大学が上田市の公立大学法人となることから、住民として今後の長野大学の在り方について考えていく必要があると考えている。長野大学では今後目指すところとして、「地域が直面している課題に向き合い、その課題に取り組み続けられる人材育成」と説明している。先ごろ開催された長野大学創立50周年記念シンポジウムにおいても同様の説明を行っていた。

公立大学法人化後は上田市に貢献できる優秀な人材を育成していくことが求められる。このため、今回の委員会では、市の「大学全体のレベルアップと、市民や受験生に期待される大学にしていく」ということと、大学の考え方がどのような結びつきがあるのかなどについて市の担当部所と懇談を行い、委員会としての今後の方向性を検討していきたい。

(会長) 先ごろ行われた上田市地域協議会正副会長会のわがまち魅力アップ応援事業(全市事業)の実績報告会において、事業を実施した長野大学の学生から地域づくり活動の報告があった。地域のことに対して熱心に考えている学生もいると感じた。そういう学生が今後増えてくれば良い方向に進むと思う。

(委員) 長野大学には地域の相談窓口として「地域連携センター」があるので、こうした活用についても検討してはどうか。

#### 「地域環境保全委員会」

(委員会代表者) 第1回の委員会を10月18日に開催し、研究テーマを「放置され荒廃した竹藪の再生・整備」とした。

近年、放置された竹藪が大雪などの際に道路をふさいだり、河川に垂れてくるなど問題となっている。景観上も好ましくない。こうした大量の竹藪を整備していくには活用策(販路)も併せて検討する必要がある。このため、長野大学と共同で検討したいということになり、11月14日に長野大学において担当される森本助教と懇談を行った。懇談では主に竹の利活用について話し合いが行われ、当面はチップ化して肥料として活用するため、その有効性について長野大学と共同で研究していくことになっている。たけのこなど地域の特産品としての活用も考えられるので、地域協議会の意見も踏まえて更に検討していくこととしたい。

(会長)長野大学には具体的にどのような協力が得られるのか。

(委員会代表者)小松菜等をプランターで栽培し、竹チップの肥料による効果について研究していただける。

(委員)竹をチップ化するには専用の機械が必要であり、機械を借りるにしても生産コストがかかりすぎるのではないか。

(委員会代表者)費用に見合う肥料の需要があればよいが、まずは事業化できるか研究してみたい。

(委員)自らの経験上、竹チップの肥料は効果があると思う。放置された竹藪は地域の課題でもあるので、採算面もあるが、竹林整備を地域の環境整備の一環として捉えてもよいのではないか。

(委員)生産量は少ないが、「竹炭」としての活用も考えられるのではないか。

(委員)竹の活用だけでなく、竹の発生を抑制する対策についても検討していただきたい。

(会長)竹については様々な課題があり、研究テーマも際限がないが、竹林整備に対する有効な手立てについて研究していただきたい。

#### 「地域の安全・安心委員会」

(委員会代表者)明日18日に市の危機管理防災課と自主防災組織について懇談し、委員会としての今後の方向性を検討していく予定である。

#### (2)その他

- ・前回の地域協議会で委員から求められた塩田地域の空き家件数について建築指導課作成の資料に基づき説明する。
- ・長野県内の「世界かんがい施設遺産」登録について、長野県から「滝之湯堰・大河原堰(茅野市)」、「拾ヶ堰(じっかせぎ)(安曇野市・松本市)」が県内で登録された旨公表されたため、県のプレスリリースの資料を説明する。

#### 4 その他

- ・次回日程など事務連絡(事務局)

#### 5 閉会(副会長)